

病院の 実力

～山形編 152

痛みやしびれ 診断重要

今月は「腰の病気」を取り上げる。脊椎脊髄専門医のいる医療機関の「腰部脊柱管狭窄症」や「腰部椎間板ヘルニア」の手術実績などを掲載した。

背骨（脊椎）の中には、脳からつながる中枢神経（脊髄）が通っている。「脊柱管狭窄症」は、加齢に伴い骨が変形するなどして神経の通り道（脊柱管）が狭くなり、神経が圧迫されて起

こる。腰痛や足の痛み、しびれ、まひなどの症状が出る。痛み止めなどの薬や運動、コルセットなどによる保存療法が基本だが、排尿障害が起きる場合などは早期の手術が勧められる。手術法には、背骨の一部を切り取るなどして神経への圧迫を取り除く「椎弓切除術・椎弓形成術」や、骨がずれて不安定になっている場合に行う「椎椎固定術」がある。

腰の病気

「椎間板ヘルニア」は、背骨と背骨の間でクッションの

みゆき会病院（上山市弁天）では、専門医2人に加え、連携先の山形大医学部付属病院



みゆき会病院

武井寛 理事長

気付かぬまま症状進行

役割をしている椎間板が飛び出して神経を圧迫する病気。20～40歳代に多い。多くは保存療法で改善するが、痛みやしびれが長引き、悪化する場合は手術を検討する。手術と保存療法の間期的な治療として、椎間板に薬を注

射しヘルニアを縮小させる「椎間板内酵素注入療法」が2018年に保険適用された。手術に比べると身体への負担は少ないが、生涯に1回しかできない。

腰痛や下半身の痛みには様々な原因があり、診断が重要だ。痛みやしびれが長引く場合は、専門医を受診したい。

武井寛理事長は「起き上がると痛みがあるが、それ以外のときは痛みがない。そのため、気付かぬまま症状が進行し、いずれは大きな手術が必要になってしまふ」と警鐘を鳴らす。

椎体骨折は、転倒だけでなく、漬けもの石を持ち上げる程度の日常的な動作で起きることも。「症状が進むと、痛みが続くだけでなく、脊柱が曲がり、脊髄神経が圧迫されて下半身のしびれが発生する危険性がある」と武井理事長。

腰の病気を予防するためには、「体重を増やさない」「腰に負担がかかるような動作を避ける」などが挙げられる。冬の雪かきも、腰に負担を掛けないよう、体全体を使うようにしたい。武井理事長は「腰の病気は早期の治療がとても重要。一にも二にも専門医に相談してほしい」と呼びかける。

病院の実力「腰の病気」

医療機関別2019年手術・治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	山形		秋田		宮城		福島	
	腰部脊柱管狭窄症手術(人)	うち椎弓切除術・椎弓形成術(人)	腰部ヘルニア手術・椎間板摘出術(人)	うち椎椎固定術(人)	椎間板内酵素注入療法(人)	椎間板ヘルニア手術・椎間板摘出術(人)	うち椎椎固定術(人)	椎間板ヘルニア手術・椎間板摘出術(人)
東北中央	506	402	104	31	0			
みゆき会	143	78	65	16	24			
山形済生	75	72	3	59	0			
山形大	21	13	8	0	1			
県立脳血管研究セ	196	189	7	63	2			
大曲厚生医療セ	88	17	71	16	2			
市立秋田総合	23	8	15	11	0			
秋田赤十字	23	16	7	38	0			
仙台整形外科	206	205	1	153	18			
将道会総合南東北	49	39	8	17	2			
大崎市民	43	37	6	18	5			
石巻赤十字	42	33	9	17	2			
JCHO仙台	39	32	6	22	43			
東北犬	30	12	18	2	3			
県立医大会津医療セ	140	60	80	77	6			
竹田総合	126	86	40	70	0			
県立医大	67	53	14	20	1			

「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター

全国の調査結果は20日の「安心の設計面」に掲載しました。